

予算額

7,053,000 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	3 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	1 団体	1 団体	1 団体	1 団体

トップアスリート総数	4 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	2 名	2 名	1 名	1 名

アシスタントコーチ総数	4 名
-------------	-----

指導種目	硬式テニス・ソフトテニス・サッカー
------	-------------------

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ トップアスリートと教室参加者が同じステージでプレーできるように教室設定をして、教える側と教えられる側の壁を作らないように配慮して、参加者にトップアスリートを身近な存在に感じてもらうようにした。
- ・ トップアスリートとクラブ指導者で事前事後の打合せをして、指導内容が参加者全員に理解できるようにした。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 参加者も技術力、取り組む姿勢、モチベーションが着実にアップしている。
- ・ トップアスリートも指導の楽しみや子ども達の熱心さに呼応し、より意欲的に取り組んでもらえている。また、指導者としての育成にもつながっている。
- ・ 謝金が確定しているので、トップアスリートとの交渉がしやすくなった。

〔課題〕

- ・ トップアスリートとアシスタントコーチ間での、より一層の意思統一が重要である。
- ・ 参加者に、この事業の重要性を訴えるシステムと、参加費設定が難しい。
- ・ トップアスリートへのアフターフォローが定期的に必要である。(派遣先の現況など)

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	真田地域駅伝大会・親子テニス大会観戦Day				
	趣旨・目的	親子や家族でスポーツやスポーツ観戦を通して世代間交流(3世代交流)をはかり、共通の話題で楽しんでもらうことを目的に開催。				
	内容	真田地域の駅伝大会観戦や親子テニス大会イベントを行い、参加者と観戦に来られた家族などに対し豚汁等を提供し、昼食をとりながら様々なかたちで仲間作りや多世代の交流を実施。				
	対象者	親子もしくは3世代家族	参加人数	89名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に密着した駅伝大会を取り入れ、参加者を増やすようにした。 ・ 種目を2種目にするのと、観る・するスポーツを同時に行うことで、日ごろ接点の無い人が交流できるようにした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の参加を中心に事業を行ったので、同世代家族等の仲間作りが出来た。 ・ 共にスポーツ観戦や一緒に食事をする事で世代間交流や仲間作りに効果があった。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決の為の材料(種目等)の地域ニーズを幅広くヒアリングしていく。 ・ 参加率アップのための告知方法を工夫していく。 				

2	取組の名称	家族ふれあいサッカーDAY				
	趣旨・目的	サッカーで世代間交流(3世代交流)をはかり、親子で楽しんでもらうことを目的に開催。				
	内容	家族ふれあいサッカーで、子どもたちと保護者との対戦や家族同士でチームを作り対戦するなどを行い、参加者同士がサッカーで交流できる内容とし、終了後、参加者と観戦に来られた家族などに対し豚汁やおにぎりなどで、昼食をとりながら様々なかたちで仲間作りや多世代の交流を行いました。				
	対象者	親子もしくは3世代家族	参加人数/回	120名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集チラシを真田地域全戸配布し、裏面にぬり絵を作成して、ぬり絵を完成して持って来られた家族に景品を用意するなど、参加率を上げる工夫をした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さいサッカーコートを作ったので、小さい子どもたちから高齢者までが楽しくサッカーで交流ができた。 ・ 昼食もグラウンド内で行ったので、ピクニック気分家族同士など多世代が参加できて交流が深まった。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加率アップのための告知方法を工夫していく。 					

3	取組の名称	親・監督・コーチ・先生VS子ども達のドッジボールドリームマッチ				
	趣旨・目的	スポーツを通じた世代間交流をはかり、大人から子供まで楽しんでもらうことを目的に開催。				
	内容	真田地域小学生のドッジボール交流と、「親・監督・コーチ・先生VS子ども達のドッジボールドリームマッチ」を行った。				
	対象者	親・監督・コーチ・先生・子ども	参加人数/回	260名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに人気のあるドッジボールを選定し、参加者を多くするようにした。また、日ごろ子どもたちに各種スポーツを指導するクラブ指導者に参加要請をし、指導者と子どもたちとの交流が活発になるようにした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの得意なドッジボールを、子どもたちを中心に、日ごろスポーツ教室で指導しているコーチや学校の先生、お父さんお母さんなど多世代が同じステージでゲーム交流をしたことで、大人も子供も関係なくスポーツを楽しむ時間が取れ、日ごろ見られない交流が生まれた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 試合の方法(親の投げ方やチーム分けなど)をもう少し綿密に計画をして大会形式で行うと、もっと盛り上がり、交流が活発になった。 告知の仕方を工夫する。 					

4	取組の名称	親子ふれあいスキー教室				
	趣旨・目的	冬季のスポーツとしてスキーを通じた世代間交流をはかり、親子で楽しんでもらうことを目的に開催。				
	内容	家族で参加をするスキー教室として行い、レベルや同世代の家族でグループ分けをして、交流とスキー技術の上達を目指して行った。				
	対象者	小学校3年生以上の子どもたちとその家族	参加人数/回	38名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 指導者をグループごとに複数名配置して、安全面と指導面を充実させ、参加者同士が楽しくスキーを楽しめる体制を作った。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 時間的に余裕を持って行ったので、寒いながらも楽しくスキーができて、家族同士での交流もできた。教室運営者も効率よく配置できたので、安全面も十分に確保できた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 教室終了後の交流会を提供できると、もっと多世代交流につながったと思う。 					

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	3 校
コーディネーター総数	6 名

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 毎月1回派遣先の全小学校教諭を含めた会議を開き、学校側との調整検証を図った。
- ・ コーディネーターに日誌を書いてもらい、次の授業に反映出来るようにしてもらった。
- ・ コーディネーターにクラブ名の入ったジャージを支給し、クラブからの指導者が来ていることを子どもたちや保護者に分かるようし、コーディネーターも本事業でクラブから来ているということを自覚するようしてもらった。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ コーディネーターの新しいアプローチにより、子ども達の体育への関心が高まった。
- ・ 授業の進行に大いに貢献しているとのことで、学校長をはじめ担任の先生方との信頼関係が築けた。
- ・ 体育が得意ではない子どもにも指導の目が行き届き、授業全体が充実するようになった。
- ・ 休み時間に運動をする子どもたちが増え、子ども達の体力が向上した。
- ・ 複数の目で子どもたちを見ることが出来たので、授業を安全に取り組めた。
- ・ コーディネーターがたくさん関わることで、体育を好きになった子どもが多かった。
- ・ 跳び箱やマット等、コーディネーターの専門性を活かした。
- ・ 子どもたちとコーディネーターの信頼関係を構築することができた。
- ・ 子どもたち個々のレベルに対応することができた。

〔課題〕

- ・ 授業前に先生とコーディネーター間で、打ち合わせが十分に取れない。
- ・ コーディネーターの人材確保が十分ではない。
- ・ コーディネーターにも月1回の調整会議に出席してもらったほうがよいのでは。
- ・ できれば毎週1時間程度、先生とコーディネーター間で、翌週の事前打合せの時間を取りたい。(テーマ、準備すること)
- ・ コーディネーターと先生との意思疎通が常に図れる環境づくりが大切である。
- ・ 先生個々の意見を吸い上げる環境づくりも必要である。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ コーディネーターの専門性を活かした新しいアプローチにより、子ども達の体育への関心が高まった。
- ・ 体育が得意ではない子どもにも指導の目が行き届き、安全性が向上し授業全体が充実するようになった。
- ・ 体育コーディネーターの影響で、休み時間に運動をする子どもたちが増え、子ども達の体力が向上した。
- ・ トップアスリートの巡回指導により、中学校部活動の競技力向上と参加者のモチベーションがアップした。
- ・ 小学生がトップアスリート等と身近に接することにより参加意欲が高まり、競技力向上に繋がった。
- ・ スポーツやスポーツ観戦を通して、世代間交流(親子・家族・指導者)を図れた。結果として当クラブが地域におけるコミュニティの拠点としての役割を果たすことができた。
- ・ 各競技の専門性と指導能力を兼ね備えた指導者の巡回指導や学校体育への関わりは、地域のスポーツの底辺拡大とスポーツ好きな子どもたちを増やし、全体的に体力向上へ結びつく事業となった。
- ・ 本事業を通して、学校及び地域、他の総合型スポーツクラブとの信頼関係が一層深まった。

〔課題〕

- ・ 学校の行事等により、体育授業の休講や変更が発生し、コーディネーターの人材確保と計画的配置ができない時がある。
- ・ トップアスリートのスケジュールとアシスタントコーチのスケジュール及び中体連大会等の日程で、巡回指導日の調整が難しい場面がある。
- ・ 地域課題解決の実施内容が、地域の方々にしっかりと伝わる広報活動が必要である。
- ・ 文部科学省等から学校全体に本事業の趣旨や目的を伝えてあると、事業の展開が行い易い場面がある。